

計画と実行

－中間試験で100点を取るための基礎知識－

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

今回のテーマは、「計画と実行」です。どうしたらある一定の目標にむかい計画を立て実行できるようになるかについて考えてみましょう。

まずはじめに、次の①～④の文章を読み、計画の実行の大切さを示しているものはどれか、一つ選んでみて下さい。どれも、二宮尊徳先生のはなされたものをお弟子さんが筆記したものです。各文は2～3回ずつ読んでみましょう。

(1) 『下男が種いもを埋めてその上に「たねいも」と書いた木札を立てたので、ワシは門弟たちにこう言ってやった。「お前たちは、大道というものが、文字の中にあると思って、文字の研究ばかりして学問だと思いついでいるが、それは間違っているぞ。文字というのは道を伝える道具にすぎないんで、道そのものではないんだ。それなのに本を読んでそれが道だと思っているのは、誤りなんだ。道というのは本の中にあるのじゃなくて行いにあるんだよ。今あそこに下男が立てた木札の文字を見てごらん。この札によって種いもを掘り出し、それを畑に植え作ってこそ、はじめて食物となるんだ。道も同じことで、目印としての書物で道を求め、これを実行してこそ、はじめて道を体得することができるのさ。そうでないと学問といえない。ただの本読みというだけのことさ。』(第71夜)

(2) 『朝から晩まで一日中善いことを考えていても、善いことを実行しなければ善人とはいえないなあ。これは、昼も夜も悪いことばかり考えているからといって、実際に悪事をはたらかなければ悪人と決めつけられないのと同じことだな。

だから悟りを開いたり、こころを静める修行などに暇つぶしするより、善いことをしようと考えたらすぐ実行するんだな。親がある者は親に孝行になることをすぐやることだ。年少者がいれば、これを教育することをすぐやるんだ。飢えた人を見てかわいそうだと思ったら、すぐ食べ物を与えることだ。

悪いことをして悪かったと思ったら、すぐ改めなけりゃ何にもならない。飢えた者を見たときに、哀れに思っても、食べ物をすぐ与えなけりゃ、ただ思っただけで善行にはならんのだよ。だから、ワシのやり方では実地実行を大事にするんだよ。』(第72夜)

(3) 『人として人間社会に住みながら、屋根が雨漏りするのを何もせず見ていたり、道路が破損しているのを関係ないもののように黙って見て通ったり、橋が朽ちているのを心配もせずに放って

おくといった、人としての勤めを怠るものは、人道上的罪人なんだぞ。』(第73夜)

(4)『桜町の陣屋(役所)の豊職人の源吉というものがワシの家に入出入りしていたが、なかなか口が達者で才知もあった。しかし大酒飲みの上に怠け者なので貧乏だった。

この源吉が年末になってワシのところに正月用のもち米を貸してほしいと言ってきたことがある。ワシはこのとき言ってやったんだ。

「源吉や、お前のように年中家業を怠けて働かないで銭ができれば酒を飲んで使ってしまう者が、正月だからといって、一年中身を粉にして働いている者と同じようにもちを食おうというのはたいへんな見違いというもんだぞ。いったい正月というものは、突然やってくるものではない。また米も偶然得られるもんじゃあない。正月は365日明け暮らしてからやってくる。その間、春に耕し、夏には草を取り、秋に刈ってはじめて米になるんだぞ。それなのにお前は春耕さず、夏草取りもせず、秋に刈りもせず、米がないのはあたり前なんだ。正月だからといってもちを食べるわけがないのさ。いま貸したところで何をあてに返すつもりだ。借りて返さなければ罪人になるんだぞ。

もし正月にもちが食いたいなら、今日から遊び怠けるのを改め、酒もやめ、山林にいつて落ち葉をかき集め堆肥をつくり、来年春から田をつくり米をとり、再来年の正月にその米でもちをつくって食べるんだ。だからお前は、来年の正月は、自分の今までの過ちを悔い、もちを食うことをやめなさい。」と懇々と諭してやったんだよ。

源吉は、はっと目が覚め、これまでの過ちを後悔して、

「ワシは遊び放題で家業を怠け、酒をくらい、そのくせ年中、一所懸命働いている者と同じようにもちを食べて正月を迎えようと思っていたがまったくの考え違いだった。きょうから怠けるのをやめ酒も飲まず、今までの過ちを悔いて新年を迎え、来年の正月はもちを食べないで正月の二日から仕事を始め、一所懸命働いて再来年は人並みにもちをついて正月を祝うようにしますだ」と言って、深く札を述べ、いとま乞いをしてしおしおと門を出た。

ワシは源吉が門を出ていくのを見て、急いで呼び戻し、ワシの教えをよく納得できたかと聞き、源吉が「ほんとうに感じ入りやした。生涯忘れんで、酒は一切やめ懸命に働くだ」と言った。

そこで、源吉に白米一俵と金一両に大根や芋などを添えて渡してやったのさ。

それから源吉は生まれ変わったような勤勉な一生を送ったんだ。』(第78夜)

*以上、『二宮尊徳口述・二宮翁夜話』1995年1月24日、日本経営合理化協会出版局刊より引用。

*計画と実行について直接書かれたものは(4)の文章ですが、(1)～(3)も「実行」することがいかに大切かわかりやすく説明されています。

2. 計画の立て方・実行の仕方

(4)の文章を読んでいると豊職人の源吉が自分のことのように思われた人もいらっしゃるかも知れません。私も、何だかこの文章を読んで教えられることが多かったように思います。

中学生・高校生の塾生の皆さんの中には、5月の中旬から下旬にかけて中間試験が予定されている方が多いと思われます。(4)の文章をじっくり読んでいるうちに、「〇〇君、君のように年中勉

強もしないで怠けて遊び惚けている人が、試験だからと言ってふだん一所懸命机に向かっている人と同じようによい点数・成績をとろうというのは大変な考えちがいというものだぞ。・・・」というふうに分科の先生として読み換えた方も多くいらしたと思われまふ。

二宮先生のおっしゃるとおり、中間試験とか期末試験、高校や大学の入学試験というものは、毎年実施される日がほぼ決まっております。出る科目も、出る内容もほぼ一定で決まっております。「いったい試験というものは突然やってくるものではありません。もし試験でよい成績がとりたければ、あるいは入試に合格したければ、今日から当分の間は遊び怠けるのをやめ、せめて目の試験までは歯をくいしばって机に向かいなさい。」

計画の立て方 試験は必ず時期がくれば受けなければなりません。避けて通れないものです。いつどんな試験があるか明確にわかっているのですから、いつからどのような準備をするのかをまず明確に決めることが大事です。自分のノートでもいいし、メモ書きでもいいですから、試験日まであと何日あり、いつごろどのような勉強をするのか、まず計画を立てることが大事です。

実行の仕方 中間テスト対策なら、まずは教科書とノートを完全に覚えこむこと、狭く深くに徹し、スミからスミまで何も見ないで言えたり書けたりできるまでにすることを、勉強の内容の中心に入れて下さい。その上で、開倫塾でおわたしする教材を、できるだけいねいにやり抜いて下さい。膨大な量の教材なので、すべてを終すことは難しいとは思いますが、必要なところを、開倫塾の先生方の指示通りていねいに勉強して下さい。限りなく 100 点に近い得点がこの中間テストで取れると信じます。

*家で勉強することがなかなかできない方、何をどのように勉強したらよいか具体的によくわからない方は、是非開倫塾の先生方に相談して下さい。学校の授業が終り、家に一度帰ってから塾での授業がない日でも、開倫塾で勉強して下さい。授業のある日には、何時間か早目に塾に来て、又、授業終了後であっても、先生の許可を得た上で空いている教室や、職員室で勉強して下さい。開倫塾には教材が完全に又大量にそろっていますので、十分活用して下さい。学校の教材を完全に覚え切ったら、開倫塾の教材をやり抜く、家で勉強できなければ塾のない日も開倫塾で勉強することを徹底して下さい。

3. おわりに

やり方次第で、中間試験のような定期試験ならいくらでも 100 点満点が取れます。試験 3～4 週間前からどうか全力を傾け計画と実行を心掛けて下さいますようお願いいたします。